

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

脚下照顧

朝夕は涼しくなりましたが、まだ日中は少し汗ばむ陽気が続いています。予報では来週には気温が大きく下がるそうです。いよいよ爽やかな秋本番の到来です。秋は、「芸術の秋」「スポーツの秋」などといわれるように、何をするにも事が進む季節です。「実りの多い秋」にしましょう。

新型コロナウイルスですが、9月末で緊急事態宣言が解除されましたが、ちょうどこの時期に、新聞記事で「ハンマー&ダンス」という言葉を目にしました。新型コロナウイルスへの対応で用いられるたとえで、第1波の頃から医療関係者でよく使われていた概念だそうです。

感染が急拡大している時は、休業要請や外出自粛など強い行動制限で感染を封じ込めることを「ハンマー」を打ち下ろすことにたとえ、感染が減少してきたら、感染防止と社会経済活動を両立させていく、言わばウイルスと「ダンス」をするようなものと表現しています。

新聞記事は、『我が国は約半年ぶりにハンマーを物置にしまい込んだ。しまいこんだハンマーが気の緩みをもたらさないか。そして、何よりも感染防止と経済回復のバランスが大切なダンスの準備ができていのだろうか。』といった内容です。

学校では、9月25日に体育祭を行うことができました。今後工夫しながら、バランスよく教育活動を行っていかねばなりません。感染防止対策を引き続きよろしくお願いします。

今回、紹介する言葉ですが「脚下照顧」（きゃっかしょうこ）と言う四字熟語です。よく禅宗のお寺の入口などに掲げてある言葉です。「自分の足もとを照らして顧みる」ということで、他人に対して理屈や文句を言う前に、しっかりと**自分自身を振り返ってみなさい**という意味です。

また、この言葉は「足もとを見なさい」ということだから、「履き物をそろえましょう」という標語のように玄関で掲示されることが多いようです。そして、この「そろえる」という行為は深い意味があります。「履き物という目に見えるものをそろえることで、心という目に見えないものもそろえることができる」ということです。

長野市の円福寺というお寺の住職が、「脚下照顧」の意味をより分かりやすく詩で表しました。

「はきものをそろえる」

はきものをそろえると	心もそろろう	／	心がそろろうと	はきものもそろろう
ぬぐときにそろえておくと		／	はくときに心がみだれない	
だれかがみだしておいたら		／	だまってそろえておいてあげよう	
そうすればきっと		／	世界中の人の心もそろおうでしょう	

履き物をそろえるというさりげない行為ですが、履き物の脱ぎ方に表れる心の状態を知り、自分の行動を見つめ直し反省することが、生活全般によい影響を与えるとこの詩は伝えています。

履き物をそろえる事は当たり前のことです。普段の生活で、これ以外の細かいところまで「当たり前のことを当たり前にする、徹底して行うこと」が基本になってくるのではないのでしょうか。以前話をした「**凡事徹底**」という四字熟語も思い出してください。

📖 次ページで、これに関連したエピソードを紹介します。

○東日本大震災から10年が経ちました。当時、壊滅的な被害を受け、4月に予定していた修学旅行を取りやめた岩手県釜石市の釜石東中学校3年生が、10月に大阪市の招待で修学旅行にやってきました。

○震災当初、釜石東中の生徒は、隣にある鵜住居(うのすまい)小学校の児童の手を引いて指定避難場所の高台に避難しました。しかし、息つく間もなく、裏側の崖が崩れ落ちそうなのを目撃し、危険を感じて、自分たちの判断でさらに高台を目指しました。高台に着いたとき、背後で巨大津波が学校を、そして町を飲み込んでいました。普段からの徹底した防災教育の成果もあって、全員無事に巨大津波から逃げ延びることができ、当時「**釜石の軌跡**」と呼ばれました。

○修学旅行でのプログラムとして、大阪市内の中学校で交流会が持たれました。その中で、釜石東中から防災学習の発表がありました。生徒の約8割は自宅が津波被害を受けており、涙ながらに体験談をまじえて報告されました。

○その中で、『**想定外の出来事に対処する力は、普段の生活態度によって養われる**』という話があったそうです。「授業、部活動、生徒会活動を一生懸命に頑張る。学校行事もしっかり目的・目標を持って全力で取り組む。家でも、避難は1秒を争うので、**必ず脱いだ履き物を玄関に向けてそろえる。**」と普段の生活について具体的に語ってくれたそうです。

○『**毎日の生活を真面目に頑張る**』ことが何より大切だということです。

※釜石市は、かつてラグビー日本選手権7連覇を果たした「新日鉄釜石」の地で、ラグビー熱が高い街です。被災後の復興計画である「復興まちづくり基本計画」を策定し、その一つとして、釜石東中と鵜住居小学校の跡地に防災機能を有するスポーツ公園を整備し、「釜石鵜住居復興スタジアム」を建設しました。このスタジアムは、2019年に日本で開催されたラグビーワールドカップの会場の一つになったことは、記憶に新しいですね。